

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和06年06月20日(木)

事務事業		生活道路整備事業		担当課	道路河川課	担当係	生活道路整備係	管理番号	49111	
総合計画	大項目	5	快適で利便性の高いまち	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務					
	中項目	2	交通アクセスの便利なまちづくり	根拠法令 個別計画等	道路法、深谷市生活道路整備の事業実施に関する要綱					
	小項目	1	道路・交通環境整備の推進							
	主要プロジェクト									
事業概要		生活道路の整備により快適かつ安全な環境を実現するため、自治会からの要望に基づき狭隘道路や未舗装、未改良区間の整備を行う。								
目的 ※何のために		緊急時や災害時の緊急車両の通行を可能にするとともに、住民の通行時の安全性を確保するため。								
対象 ※誰・何を対象に		狭隘道路や未舗装、未改良区間の道路。								
手段 ※どのように		自治会からの要望や優先順位を踏まえ、事業効果や必要性等の評価結果に基づき、地域バランスにも配慮し事業箇所を選定する。								
成果 ※何を求めるか		良好な居住環境の整備が図れる。								
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他()								
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額(円)		
		一般会計	8	土木費	2	道路橋りょう費	2	道路新設改良費	道路新設改良事業	410,732,383
本事業の 主な業務		・生活道路整備要望の調整業務					・			
		・生活道路の整備					・			
		・関係機関との調整業務					・			
		・測量設計、物件調査業務					・			
		・					・			
		・					・			

2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
年度別計画		・工事の実施・測量、調査、設計ほか	・工事の実施・測量、調査、設計ほか				
事業費	予算(現額)	436,315,000	471,168,000	561,986,000	513,475,000		
	決算額	343,666,689	410,732,383	0	0		
	財源内訳	国支出金	24,631,000	23,114,000	26,250,000	21,718,000	
		県支出金	0	10,993,400	0	0	
		地方債	22,000,000	20,600,000	23,600,000	31,400,000	
		他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	297,035,689	356,024,983	512,136,000	460,357,000	
人件費	従事職員数(人)	6.67	6.67	6.37	6.37		
	人件費相当試算※	52,489,946.00	53,427,801.00	53,258,933.00	53,258,933.00		
総事業費試算		396,156,635	464,160,184	615,244,933	566,733,933		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名	目標値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
実績値の算出式									
活動指標 1	生活道路整備要望数	目標値	件						
		実績値		47.00	23.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			自治会からの要望のため、目標値は設定しない/当該年度の実績（発注済延長）					
	実績値の算出式								
活動指標 2	道路改良工事施工延長（道路新設改良事業）	目標値	m	1,104.00	2,132.00				
		実績値		1,086.00	1,910.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			予算から算出した工事延長。 / 当該年度の実績（発注済延長）					
	実績値の算出式								
活動指標 3	舗装新設工事施工延長（道路新設改良事業）	目標値	m	440.70	950.00				
		実績値		489.00	292.50				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			予算から算出した工事延長。 / 当該年度の実績					
	実績値の算出式								
成果指標 1	整備要望への対応率	目標値	%						
		実績値		36.00	61.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			整備要望数に左右されるため、目標値設定になじまない / 新規着手箇所数及び舗装新設箇所					
	実績値の算出式								
成果指標 2	生活道路改良率	目標値	%	35.33	34.36	34.48	34.60	34.72	34.84
		実績値		34.24	34.33				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			過去5年間の伸び率の平均値を加算 / 道路台帳（その他道路改良率）					
	実績値の算出式								
成果指標 3	生活道路舗装率	目標値	%	71.02	68.77	68.81	68.85	68.89	68.93
		実績値		68.73	68.88				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			過去5年間の伸び率の平均値を加算 / 道路台帳（その他道路舗装率）					
	実績値の算出式								

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。
（評価基準）（A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない）

（1）事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	B	人件費や建設資材費の高騰により道路改良工事延長、舗装新設工事延長については目標値に達しなかったが、道路改良工事は予定した箇所について、すべて工事を発注することができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	B	生活道路改良率及び舗装率の目標値については、目標設定期間が経過したため、今後5年間の目標設定を新たに行ったところ値が下がった。 生活道路改良率については、概ね目標を達成することができた。また、生活道路舗装率についても目標を達成することができた。
			評価者 生活道路整備係長 秋山 隆之

（2）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
（評価基準）（A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	ロゴチャットを利用した現場確認を試行的に運用し、検証を行ったところ、移動時間の縮減など業務の効率化を図ることができ、一定の成果が確認できた。
			評価者 生活道路整備係長 秋山 隆之

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和4年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	・道路改良要望に対する新規着手箇所数の増 ・道路改良工事において複数年度に渡って工事を実施する箇所の単年度工事延長の増
達成状況及び その効果	新規着手箇所は令和5年度は令和4年度と同数となり、道路改良の単年度工事延長は令和4年度とほぼ一致する100m/箇所となり、舗装新設工事延長は令和4年度比196.5m減となった。新規着手箇所数は前年度と同数を維持できたものの、舗装新設工事延長は前年度を下回った。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	生活道路整備事業	担当課	道路河川課	担当係	生活道路整備係	管理番号	49111
<div>■ ①拡充、重点化（コスト投入） <input type="checkbox"/> ②現状のまま継続 <input type="checkbox"/> ③見直して継続 <input type="checkbox"/> ④目的達成による終了 <input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div>		<div>□ 委託化等の検討 □ 成果向上のための改善 □ 効率化のための改善 □ 事業規模の縮小 □ 他の事務事業と統合</div>					
		評価の内容説明					
		生活道路整備については、自治会からの要望が多く整備が追いついていないのが現状となっており、令和5年度の整備要望への対応率については令和4年度と比較すると改善されたものの、過去の平均と比較すると減少している。さらに物価上昇により、同額の予算では対応率が低くなることが見込まれるため、今後、道路整備要望について少しでも多くの要望に応えていくため、事業を拡充して実施したい。そこで評価を「①拡充、重点化（コスト投入）」とした。					
		評価者 道路河川課長 今井 吾郎					
上記を実施するための具体的な取組内容は？							

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和6年度に実施する 改善・改革案 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	・道路改良要望に対する新規着手箇所数の増 ・道路改良工事において複数年度に渡って工事を実施する箇所の単年度工事延長の増。
令和7年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	人件費や建設資材が高騰していることから、道路構造の検討を行い、建設コストを縮減していくとともに、新規着手箇所については必要性、事業効果等の評価を適切に行ったうえで選定していく必要がある。

8. 評価指標グラフ

